

No.144 2016 JULY

平成28年7月22日発行



愛と復興

只見

議会だより

議会新体制決まる	2
危険庁舎まず暫定移転	4
奥会津学習センター増設工事きまる	6
黒谷の通称「学校道」改良一步前進	8
一般質問 (全議員が登壇)	11

発行：福島県南会津郡只見町議会
編集：只見町議会広報広聴常任委員会
〒968-0421 福島県南会津郡只見町大字只見字町下2591番地30
TEL.0241-82-5300 FAX.0241-82-5222
E-mail:gikai@town.tadami.lg.jp



「力いっぱい頑張ります」(明和小運動会選手宣誓)

新体制決まる 4/20初議会

議長に齋藤邦夫議員

副議長には酒井右一議員



副議長に当選した
酒井右一議員（3期）



議長に当選した
齋藤邦夫議員（5期）



議会改選後の初議会が4月20日に開かれました。3月の選挙で当選した12名全員が出席。議長や副議長の選挙、常任委員の選任などが行われ、新しい議会の体制を決めました。

齋藤議員が新議長へ

議 長の選挙は投票で行われた結果、齋藤邦夫議員が7票、佐藤孝義議員が4票、目黒仁也議員が1票で齋藤邦夫議員が当選しました。この後に副議長

選挙が行われ、投票の結果、酒井右一議員が6票、目黒仁也議員が5票、大塚純一郎議員が1票で酒井右一議員が当選しました。

新議長あいさつ

本町は人口減少、そして少子高齢化に起因する様々な課題が山積しております。去る3月会議において第七次只見町振興計画が議決されておりますが、その着実な実現と当面する役場庁舎問題など、議会として速やかに、また的確に判断すべき課題があります。については、執行権限を有する町長と議決権限を有する議会が共に役割を尊重し、町政発展と町民福祉の向上に努力する所存です。

議長として、議会運営について公正無私の立場で職務に携わる決意です。議員各位の温かいご指導・ご支援をお願い申し上げ挨拶とさせていただきます。

常任委員会名簿

委員会名	委員指名	分担
総務厚生常任委員会	委員長 中野 大徳	総務、民生及び保健福祉に関する事務調査や陳情・請願等の審査を担当
	副委員長 山岸 国夫	
	委員 鈴木 征	
	佐藤 孝義	
	新國 秀一	
経済文教常任委員会	委員長 大塚純一郎	産業・経済及び文教に関する事務調査や陳情・請願等の審査を担当
	副委員長 藤田 力	
	委員 目黒 仁也	
	鈴木 好行	
	目黒 道人	
広報広聴常任委員会	委員長 目黒 仁也	議会だよりの編集及び住民との懇談会等広報・広聴全般を担当
	副委員長 目黒 道人	
	委員 大塚純一郎	
	中野 大徳	
	山岸 国夫	
	鈴木 好行	

監査委員

目黒仁也議員を選任

議会選出監査委員の選任同意が町長から提出され、満場一致で同意されました。



西部環境衛生組合議会 副議長に鈴木征議員

郡 内の消防・救急医療などを担う南会津広域市町村圏組合議会議員に齋藤邦夫議員、佐藤孝義議員が選出されました。郡内のゴミの処理などを行う

南会津環境衛生組合議会議員に鈴木征議員、齋藤邦夫議員、鈴木好行議員が選出されました。なお、6月定例議会で鈴木征議員が副議長に選任されました。

常任委員会の新体制決まる

議 員の改選に伴い、新たに常任委員会の所属構成を決めました。常任委員会は議会の内部機関として、町の事務に関する調査や

議案の審議、町民からの陳情の審査などを行うために設置しています。構成は上の表のとおりです。

議会運営委員会も新体制となる

議 会運営委員会は、議会の運営を円滑にする目的で設置しています。議会の運営に関する事項、議長の諮

問事項などについて調査をします。構成は、新國秀一委員長他、各常任委員会委員長で構成されます。



新たに当選された議員

全 員
協 議 会

まず 暫定移転

議会の申し入れを受諾



現在の役場分庁舎

入札不落・不調の原因を明らかに
特別委員会で9月をめどに検証

新庁舎は、昨年度入札が不落・不調となり、議会は4月
に今後の方針を協議しました。結果、熊本地震の発生等い
つ何が起こるか分からない昨今、他の公共施設へ早急に移
転して、町民や職員の生命の安全を最優先すべきとの結論
を出し、その旨を翌日議長が町長に申し入れました。その
後町当局との協議で町長より暫定移転方針が示され、今後
移転先の協議や予算の審議に入ります。なお、議会では特
別委員会をつくり、9月目途に原因調査を行う予定です。
経過をお知らせします。

特別委員会設置の目的

今まで新庁舎建設の設計には約
1億2千万円の税金が使われ、議会はその
設計に基づいた建設予算14億円を承認しま
した（平成27年3月会議）。町は工事の発
注に向け、設計変更を含む2度の入札を執
行しましたが、いずれも成立せず、その後
3地区で行われた住民説明会では、住民か
らの厳しい声も上がっています。税金を使
う公共事業は、常に「原因と責任の所在」
を明らかにして進むことが求められ、その

危険庁舎

町長

今年度の経過

28年4月26日 議会「暫定移転」を決定

町民・職員の生命安全のため、議会は現庁舎の暫定移転を決定した。

4月27日 議会方針を町長に申入れ

内容は、他の空いている施設へ移転し、危険な現庁舎の使用停止を求めるもの。

5月10日 町当局と協議

議会は、緊急事案であり一日も早い移転協議を求めたが、町は、実務的な精査をした後協議（案）を示したいとした。

6月14日 町長回答：「暫定移転方針」示す

人命最優先の提言と受け止める。暫定移転と同時に新庁舎建設を進めることが町民の安心・安全につながると考える。

6月17日 「暫定移転」を決議

議会は、「暫定移転」の申し入れを正式な議会意思とするため、町民・職員の生命の安全と役場庁舎の暫定移転を求める決議（案）を賛成多数で可決した。

決議（案）に賛成…酒井、大塚、新国、目黒（仁）、山岸、鈴木（好）、目黒（道）
〳 に反対…鈴木（征）、藤田、佐藤、中野

提案に至った議会運営が不適切だとして、議長不信任動議が提出され、採決の結果、反対多数で否決した。

同日 原因調査の特別委員会設置

不落・不調の原因を調査する特別委員会が設置される。



教育委員会や議会などが入る旧只見中学校校舎

調査のため特別委員会が設置されました。名称は、「役場庁舎建設に係る調査特別委員会」期間は当面9月まで、構成は、議長を除く議員11名となります。
◎委員長：酒井右一
○副委員長：佐藤孝義

5月
会議

あらまし

5月会議は10日と26日に召集され、白沢集落の給水施設の陳情などが担当委員にその審議が付託されたほか、災害で壊れた小塩塩ノ岐線の工事請負契約と只見高校へ山村留学生を受け入れる学生寮（奥会津学習センター）の増設工事の契約を議決しました。ここでは、只見高校の現状についてお知らせします。

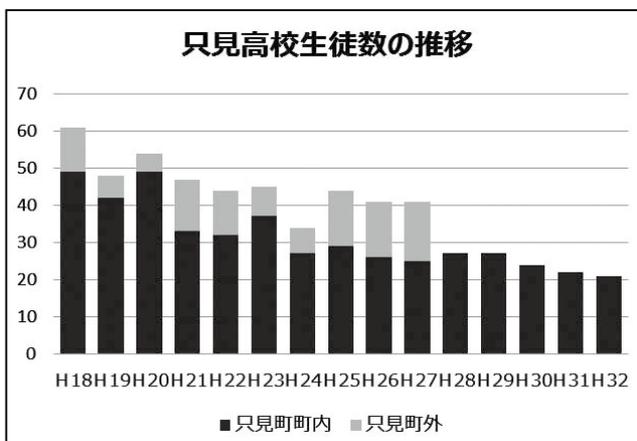
奥会津学習センター増設工事きまる

議会も積極支援

只見高校の現状は絶対数が不足

只見高校は、南会西部高等学校の分校として開設し、その後の変遷を経て昭和39年に福島県立只見高等学校となり現在に至っています。現在、町は他地方と同様、少子化によって高校に進学する絶対数が足りない状況にあります。そこで、町外から山村留学生を募集し、地元只見高校の活性化を図っています。

只見高校生徒数の推移



生徒数の推移グラフは、27 教育委員会だより抜粋

地元高校の存続をかけて





第15期 只見町山村教育留学生

今年入学の山村教育留学生

現在の施設正面に別棟が増設される予定です



現在の奥会津学習センター

地元高校存続は町の活性に影響大

仮に地元高校がなければ、子どもを遠方に通学させなければならぬため、生徒保護者の時間的・経済負担が大きくなります。また、高校・大学を町外で過ごすため地元への

愛着も薄れます。更に、高校が存在することで生じる地元経済効果は一億一千万円以上とも言われ地元高校の存在価値は非常に大きいものがあります。

表紙の写真



運動会 選手宣誓
 5月14日明和小学校運動会が行われました。今年のテーマは、「最後まで仲間を信じて全力で競い合え」この日、紅組代表、白組代表で選ばれた二人。六年生の
 紅組 宇野心晴さん、
 白組 平野結菜さん、
 校長先生の前で元気に選手宣誓。家族の声援のもと熱戦が繰り広げられました。

補正の目玉

6月
補正予算

初議会

全員協議会

5月会議

6月会議

委員会リポート

一般質問

教えて議会のこと

黒谷「学校道」改良工事

子どもの通学の安全・安心



黒谷地内「(通称) 学校道」

黒谷のJAや小中学校に通ずる「朝日学校大畑線」の改良工事。工事や物件移転に係る予算が決定。子どもの通学の安全が図られます。

黒谷の通称「学校道」改良一歩前進
移転費など関連予算可決

集落水路の改修

農業と住民生活を支援

集落要望により緊急性のある水路の改修を支援します。本年度予定地区は以下の通り。

蒲生宮原・只見田の口・上福井・黒谷入・寄岩・黒谷中千苅・梁取・深沢・入叶津



蒲生宮原水路の現状

6月会議
意見書

二つの意見書を国県へ提出

- ①「特別支援学校」の設置を推進せよ
- ②消費税10%への増税を中止せよ

※意見書内容の詳細については、議会ホームページで確認できます。

一般会計補正予算の主な内容

歳入 (収入)

町税 (固定資産税、軽自動車税)	1558万円
総務費 地方創生推進交付金 (国より)	1500万円
医食同源の郷づくり補助金 (県より)	350万円
子育て支援・少子化対策基金より繰り入れ	700万円

歳出 (支出)

健やか発育・発達支援事業委託 (地方創生)	3000万円
医食同源の郷づくり事業	490万円
朝日学校大畑線道路改良・測量他	2189万円
公営塾運営委託	560万円
農業施設整備事業集落補助金	300万円

只見町総合戦略とは…

「総合戦略」は、少子化を克服するための5か年計画で、全国の市町村が策定しています。今年から本格的に事業が始まり、国も昨年と今年で2000億円の支援予算を編成しています。

「国保税」すえおき

(反対1名、賛成10名)

今年度の国民健康保険税は、財源確保の見通しが立ったことと併せて町民負担の軽減を図ることを理由に増税しない提案がありました。予算は可決されましたが、反対討論がありました。

山岸国夫議員

反対討論

町民の生活と健康を守るために、国の保険者支援制度と町の基金を取り崩し保険税の軽減処置をとるべきであり、昨年同様の税率としているこの予算案に反対する。

鈴木征議員

賛成討論

低所得者が増えている中で、今回提出の予算が据え置きで計上されていることは良くできたことである。よって、本議案に賛成する。



奥会津学習センターで学習する生徒

学力と人間力向上を目的に町は「公営塾」を開設します。当面、只見高校生が対象となります。カリキュラムの作成委託等関連予算が可決しました。

学力の向上を支援 公営塾を開設

「只見町総合戦略」に基づいて、幼児期から運動遊びによる子どもの体づくり事業に取り組みます。先進的な取り組みで指導委託などの関連予算が可決されました。



子育て支援は重要な課題

子育て支援 運動遊びで体づくり

エゴマ刈取機に補助

「じゅうねん」が町の振興作物に



重点振興作物のエゴマ

今年県が行う「医食同源の郷づくり事業」(健康機能を持つ作物生産)を行う団体等に町が補助金を交付し支援します。特に耕作放棄地の未然防止を狙っています。

「空き家バンク」 立ち上げに向けて

委員会体制が一新したことにより、所管各課より今年度の事業を改めて確認するなど調査を進めている。特に、各振興センターにおいて、本年11月「空き家バンク」の設立を目指していることについて課題把握等の調査を行った。現在、アンケート調査を実施し、7月には調査のとりまとめ、11月にバンク設立、12月には町ホーム



利活用されている空き家（明和地区）

ページで紹介開始の予定である。委員会としても、「空き家バンク」は町振興計画の中で重点政策として掲げられており、一日も早い設立を目指すべきと考えられている。今後も重点的に調査研究していく。

なお、本調査は地域おこし協力隊などにより各振興センターで実施している。



きのこセンター視察状況

型社会の構築への取り組みなど、様々な挑戦を続け、過疎からの脱却と自立する村を目指して頑張っている。

今回の視察を終え、只見町として10年先、20年先の具体的で明確な目標を設定し、その目標達成のため果敢に挑戦していきたい。

上野村では、過疎からの脱却のため、若者定住政策を最重要課題と位置付けている。雇用の場の創出、安価で所得制限のない村営住宅の整備、経済的不安に対する生活支援策など様々な政策を強力に

推進している。

結果、定住者（UIターン者）は238人（※平成27年6月1日現在）で、実に村の総人口1315人の18%までに至っている。他にも、バイオマスの有効活用による村内循環



ペレット工場視察状況

人口減少に歯止め 群馬県上野村に学ぶ

経済文教常任委員会



6月会議 一般質問

- **大塚純一郎** 12
・魅力ある若者定住政策を、他
- **新國 秀一** 13
・役場庁舎建設の責任は、他
- **鈴木 好行** 14
・第六次振興計画の検証結果は、他
- **酒井 右一** 15
・人口対策を事業化する考えは
- **目黒 仁也** 16
・庁舎建設「原因と責任」を明らかに、他
- **鈴木 征** 17
・高齢者の健康対策は
- **藤田 力** 18
・水道未整備地区の支援強化を、他
- **佐藤 孝義** 19
・国道 289 号改良計画を示せ、他
- **目黒 道人** 20
・少子化対策と若者の移住定住の実績は
- **山岸 国夫** 21
・学校給食費の無料化を、他
- **中野 大徳** 22
・「ふるさと納税」で財源対策を、他

町政を問う

町を想い11名が

一般質問とは

議員が行政全般（役場の仕事全般）に対して、方針をただしたり政策の提言などを行うことです。

魅力ある 若者定住政策を

答 大胆かつ魅力的事業を検討する



おおつかじゅんいちろう
大塚純一郎議員



若者定住の取組み調査（群馬県上野村）

シルバー人材センターの設立は

答 継続して調査を進める

問 昨年9月会議から積極的な取り組みを提案している。

65歳以上の高齢者が44パーセントを超える町の現状で、元気な高齢者が生涯現役で活躍で

きる社会の実現が急務と考えるが、町の考えを伺う。

答 設立に向け、社会福祉協議会とともに取り組んでいく。今年度も継続して

設立に向けた調査研究を進めたい。

問 現在の社会福祉協議会の事務局体制では、設立の実現は無理ではないか。

答 事務局体制を拡充して具体的な協議に備えている。課題もあるが、地域住民の理解と参画をいただき取り組んで行きたい。

問 町が、最優先に取り組むべき政策は「若者定住政策」である。将来の只見町を担う若者が確実に増えていかなければ、少子過疎高齢化に歯止めがかからない。大胆な、魅力ある政策が必要と考えるが。

答 重点政策として住宅環境の整備、子育て環境の整備、産業の創出などの若者定住政策に邁進する。

議会、町長の 役割の認識は

答 対等・平等の関係である

問 町長、議会議員は、互いの独善と専行を防止する体制がとられている。議会

答 憲法、地方自治法により「議会」「執行機関」が規定されている。町長、議会の権限については、基本的には対等・平等の関係にあると認識している。

問 地方自治法上、条例、予算、重要な行政執行など町長の提案に対して可否を表明する事が、議会の最も重要な責務であるが。

答 執行機関として「議会の議決」された事案について執行するのは当然の責務である。

役場庁舎建設の責任は

答 一日も早い建設を進めることだ

問 役場庁舎建設不
落・不調につい
ての責任について問
う。設計業者と設計支
援業者に総額いくらか
払ったのか。

進めることが町の責任
だ。設計者に対しては、
約7500万円。環境
システム研究所へは約
3200万円を支出し
ている。

答 設計者、オー
ナーズコンサル
ティング会社には条件
の整理や発注業務支援
等、役割を果たしてい
ただいており責任はな
いと考えている。

町の責任について
は、一日も早い建設を

問 100%町民の
血税を使い何
の成果も得られなかつ
た。そのことをしっか
り検証し、原因を突き
止めた上で、その報告
を町民に示さなければ
ならないと思うが。

町長は今まで
使った予算に対
して何の精査もせず、
反省もせず総括もしな
いのか。残りの任期の
中で示さなくてもいい
んだと考えているの
か。

答 改めて申すが、
そういう事案で
はないと考えている。

答 各委託業者につ
いては、成果品
を受領しており、責任
を求めような事案で
はないと考えている。

問 町長は今まで
使った予算に対
して何の精査もせず、
反省もせず総括もしな
いのか。残りの任期の
中で示さなくてもいい
んだと考えているの
か。

改めて申すが、
そういう事案で
はないと考えている。



議員 一秀 国新

伝承製品の今後の活用計画は

答 販路拡大を図りたい

問 「自然首都・只
見」伝承産
品の今後の活用計画を問
う。

答 昨年度まで40を
超える種類の商
品が販売された。湯ら
里の売店等での町内販
売やふるさと納税返礼
品でも活用し、今後は
販路拡大を図り、ユネ
スコエコパークの認知
度向上に努める。

問 町民が知らない
のは問題である
と思わないのか。

答 今後検討してい
きたい。

※他に、「町民集団訴
訟」「町長の進退」に
ついて質問しました。



只見町伝承産品



議員 鈴木好行

第六次振興計画の 検証結果は

答 定住促進対策が十分でなかった

問 成果の得られなかった施策についての原因究明は。

一方、人口減少の解決に結びつく定住促進対策については十分な効果が得られなかった。

ファイバー網の構築による情報通信体制の整備を行った。また、除雪支援等の雪対策、「ユネスコエコパーク」への登録、「只見町ブナセンター」の設置などが挙げられる。

成果の得られた事例として、光ファイバー網の構築による情報通信体制の整備を行った。また、除雪支援等の雪対策、「ユネスコエコパーク」への登録、「只見町ブナセンター」の設置などが挙げられる。

問 第六次振興計画の実施検証は。

反省すべき点はある。検討に多くの時間を要し、原因究明ができていない事業もある。今後は、スピード感を持って実行していく必要があると考えている。

答

反省すべき点はある。検討に多くの時間を要し、原因究明ができていない事業もある。今後は、スピード感を持って実行していく必要があると考えている。

第七次振興計画の検証方法は

答 評価委員による中間検証を行う

問 今後、振興計画に基づき事業を進めるうえでの検証方法は。

つになるのか。小中学生にも分かる概要版の配布はあるのか。

答 「将来の夢」という形での概要版を配布したい。

問 若者定住促進のために、健康づくりの施設が必要である。今後の計画を伺う。

答 第七次振興計画にも掲載しており、実現に向けて検討する。

※他に、「震災時の災害対策本部設置」について質問しました。

問 第七次振興計画の全戸配布はい

答 国の指針に沿って作成したもので、大きな目標設定はできない。目標値を超える人口を目指し、事業展開を図りたい。

問 25年後の人口目標を3000人としているが、目標値として低すぎないか。

第六次振興計画の反省も踏まえ、4年目・7年目・10年目に計画の評価を実施する。評価については、今回の振興計画策定に携わっていたいた専門部員に評価委員としてお願いする。



只見町振興計画（左：第六次、右：第七次）

人口対策を

事業化する考えは

答でできることから進めていく

問

過去の人口減少の推移を見ると毎年約100人ずつ減っている計算になる。町が作成した「総合戦略」や「人口ビジョン」を分析すると、これから向こう3年間で毎年50人ずつ子どもが生まれるということになるが、実際に計算してみようとすると、その様な計算は成り立た

ない。間違った根拠に立つ総合戦略は成り立たないのではないか。

答

この人口ビジョンは町が作成したもののだが、作るにあたっては福島県の担当部局等々と協議を重ねて作ったものだ。総合戦略を策定した経過も考慮して頂きたい。

問

総合戦略には「このまま

施策を講じなければ…“只見町の人口は3000人台になると書いてある。昨年9月に私が提案した高校振興策を含む、高校卒業までの子ども手当の交付、医療・福祉の無料化、只見高校学費等の無料化などによる人口対策を施策として事業化する考えはないか。

答

大都市でも少子化対策に生活支援型の制度をするようになった。自主財源(主に固定資産税)は減っている。半面、広域負担金や補助金が増えている。行政・財政改革をしながら財源を生み出し、議会の理解を頂ければ、今言われているような施策を、できることからひとつずつ取り組んでいきたい。

※他に、「納税組合のあり方」について質問しました。



さか い ゆう いち
酒 井 右 一 議員



町の将来を担う子どもたち

庁舎建設「原因と責任」を明らかに

答 指摘の意味は理解する



議員 目黒 仁也

問 議会は、二度の不落・不調となった新庁舎建設について、住民、職員の安全を最優先に「暫定移転」の申入れを行ったがその後は、

答 申入れは人命最優先と受け止めた。緊急避難的暫定移転と同時に新庁舎建設を推進していきたい。

問 今まで1億2千万円もの血税を投じてなぜこのような事態になったのか。原因と責任の所在をまず施主である町民に明らかにすべきだ。



群馬県上野村の村営住宅

答 反省せざるを得ない経過もあった。住民説明会を開催し説明してきたが指摘も頂いた。今後は意見を踏まえ取り組んでいくことが大事だ。現時点では、一日も早く実現するのが使命と思っている。

問 「設計責任」がないというのは住民感情から理解できない。

答 契約に基づくものは履行されている。住民の気持ちには口頭でも伝えてきている。

問 町長としての責任はどう考えるか。

答 経過は皆さんと合意してきた自負がある。反省を活かして早い完成を目指すのが使命だ。

問 住民にもっと寄り添った町政をしてほしいのが町民の本音だ。住民の意向をくまなかったのがこうなった大きな原因だ。

答 議会の議決なしでは執行できない。

若い世代への支援見直しを

答 全般を見渡す視点で検討する

問 今後の少子化対策は、子どもをもっと産み育てたいと願う若い世代への経済支援策を再検討することが大切だ。

答 経済支援の他、全般を見渡す視点で内部協議した

問 少子化対策で若者定住住宅の整備は今後どう取り組むか。

答 法律に規制されない所得制限のない住宅整備も今後必要と考え、現在県と協議している。

高齢者の健康対策は

答 集落サロン事業などを推進

問

「あさくさホーム」の開所により、どの程度待機者が解消されたのか。また、今後の待機者対策は。

答

平成28年6月1日現在で町内の特別養護老人ホーム入所待機者数は実人数65人となっている。平成27年12月の101人と比べると急激に減少した。今後は、住み慣れた自宅で生活ができるよう地域づくりサロン

事業などの介護予防事業の推進を図ること、待機者の減少につなげたい。

問

全国的に介護人材が不足していると聞けが、町内にある介護関係施設の職員状況は。

答

「只見ホーム」は26名、「あさくさホーム」20名、「こぶし苑」26名、「桜の丘みらい」15名、「和みの里」17名の合計104名の職員が介護関連施設で働いている。

問

高齢者が健康を維持するための対策として、どのような方針に基づき、どのような具体策を講じているのか。

答

昨年度の介護保険制度改正により、

昨年度の介護保険制度改正により、地域の実情に応じて地域の支え合い体制づくりを推進する内容に移行している。これを受け、町では高齢者の健康づくりサロン事業等を通じて普及に努めている。住み慣れた地域で人生の最後まで続けることができるよう、地域包括ケアシステムの構築実現に向け、着実に進めたい。

問

地域づくりサロン事業の立ち上げを今年度7団体予定しているが、7団体とはどこなのか。

答

既に活動を始めているのが布沢、長浜地区の2団体。申請書類の準備をされているのが小川、楢戸地区。設立の意向を示し相談されているのが下福井、塩沢地区。また、小川地区の中でももう1団体検討されて



鈴木 征 議員



地域づくりサロン事業の様子



ふじ 藤 田 ちから 議員

水道未整備地区の 支援強化を

答 地域住民と一緒に取り組む

問

高齢化が進み、小規模集落は日々の暮らしに不安さを感じている。町の簡易水道以外を飲料水として生活している集落・人口の数は。

答

布沢・坂田・塩ノ岐・長浜・黒谷人の五集落で349人が利用している。

問

布沢の太田につき、黒谷入からも陳情が出された。どう対応されるのか。

答

整備方法の協議や調査を進めている。安定的に供給が保てるように地域の方々と一緒に取り組む。

問

住民に寄り添う町政を実現するには、以前に提案した神奈川県開成町の「町づくり推進課」や「町職員の集落担当制」を検討すべきと思うが町長の考えを伺う。

答

貴重なご提言である。人口減少が問題になっている町において、多くの課題に幅広く対応できる「町づくり推進課」や「町職員の集落担当制」については検討する。今後の行政組織機構改革の折には、この提言をしつかりと受け止めたい。

林業振興にCLTを

答 機械近代化の支援を検討したい

問

町内に植えられた杉が伐採期を過ぎても利用されない。資産としての価値も低く、杉林は見放された状況だ。最近、CLT(直交集成板)という建築工法が注目されている。国や県も後押し、東京五輪の選手村などにも活用を目指している。杉の大径木も使えるので検討すべ

きと考えるが、町の考えはどうか。

答

CLTは、新たな木材需要の創出や国産材利用増に大きな期待が寄せられている。ラミナー製造は通常の製材工場であれば生産は可能だと聞いている。

問

会津の組織に参加して杉林の有効利用を積極的に

答

ラミナーの生産施設が会津にできたとしても遠方で採算が難しい。製材業者の意向も聞いて製材機械近代化の支援を検討したい。



湯川村では昨年、二戸四世帯用の村営住宅がCLTで建設されている。

国道289号 改良計画を示せ

答 安全な道路交通確保を重要課題と認識

問 現在までの実施
区間と今後の計
画期間は。

答 八十里越区間
20.8キロメー

トルは、昭和48年より
只見側から改良工事が
着工され、その後昭和
61年から県境部を含め
た11.8キロメートル
を国の直轄区間とし改
良工事が進められてい
る。最大の難所の直轄

区間が工期、事業費と
も大きくなっており、
全体として現在7割の
進捗となっているが、
完成年度はまだ明らか
にされていない。

問 開通までの10年
目途の危険箇所
等の拡幅計画について
情報のわかる範囲で教
えてほしい。

答 改良工事は現
在、田中地区の

拡幅工事に向けた用地
取得等が進められてお
り、黒谷、小林、大倉
地区では、歩道の整備
が進められている。開
通後は人的、経済的交
流が2市町にとどまら
ず広域的な広がりをも
つものと期待してい
る。

区間が工期、事業費と
も大きくなっており、
全体として現在7割の
進捗となっているが、
完成年度はまだ明らか
にされていない。



議員 佐藤 孝 義

只見川圏域 河川整備計画の内容は

答 治水対策を国・県に要望する



改良工事が予定される五礼橋

問 町分の概要は、
計画工期・金額
など、はつきり示され
たのか。

答 5町全体の整備
計画は14.3キ

ロメートル、総事業費
は約440億円になっ
ている。その内、只見
町の整備区間は、5.
3キロメートルであ
る。現在全地区で地形
測量を実施しており、
詳細設計が出来上がり
次第、金額が示される
と理解している。なお、
平成24年から八木沢地

区で整備計画に沿った
工事が行われており、
今年度は河川拡幅に伴
う五礼橋の延長工事が
着手予定である。

問 伊南川等各支流
域の県の今後の
計画をわかる範囲で説
明願いたい。

答 只見川河川整備
計画の中には伊

南川流域は含まれてい
ないが、現在、小林地
区の狭窄区間の工事が
実施中である。その他
の大きな改良計画は、
現段階では予定されて
いない。

問 5月26日に行わ
れた只見川河川
整備促進期成同盟会の
要望事項は。

答 総会では、今年
度の事業計画と
して、国、県に対して
只見川の河川整備予算
の確保、及び事業の促
進を要望していくこと
を決定した。



目黒道と議員

少子化対策と 若者の移住定住実績は

答 子育ての経済支援の充実を図ってきた

問 我が町の人口は減り続けており、それに伴って高齢化率も上昇している。歯止めを掛けることはなかなか難しいが、減少スピードを緩やかにする施策として、少子化対策と若者の移住定住に期待している。現在の取り組みと実績について伺う。

答 現在の少子化対策は、妊産婦検

診助成から、子宝祝い金、医療費無料化、保育料の軽減対策など、妊娠・出産・子育てに係る数多くの負担軽減を行い、このうち妊婦

健診において、昨年度は延べ450回の利用があった。経済支援ばかりではなく、子どもの健やかな成長を促すため「ただみ健やか発育・発達支援事業」も実施していく。U・Iターン促進助成では、これまで4組の申請があり、若者の定住に効果があったと考えている。

問

私も娘が生まれ、様々な経済支援策には感謝している。U・Iターン促進助成の申請は4組のことだが、まだまだ少ない。これまでのPR

私も娘が生まれ、様々な経済支援策には感謝している。U・Iターン促進助成の申請は4組のことだが、まだまだ少ない。これまでのPR

施策は消極的に感じているがどうか。

答

PRはハローワークや地域おこし協力隊、只見ふるさと応援団など行政機関を通じて情報提供を行っている。また新規就農者の募集、支援策などPRに努めている。

問

都市生活者の間には自然派志向の人も増えており、口ハスという言葉が出来る10年にもなる。野外音楽フェスティバルも各地で開催され、南会津町で秋に開催される「大宴会in南会津」には都会から若い家族連れが多く参加している。移住のPRについては、若者の多様な感性に寄り添った取り組みに期待している。若者のコミュニティに対して訴求する方法を模索してはどうか。

答

若い世代にどうアピールしていくか、という視点に立ってなかった側面がある。若者が移住に求めるものは果たして何なのか、みなさんと一緒に研究していきたい。



野外フェスなどでPRしてはどうか

学校給食費の無料化を

答 保護者と自治体が責任を分担

問 学校給食費の無料化は、児童・生徒の健やかな成長の後押しをするもの。少子化対策として子育て世代の経済負担を軽減することにより、経済の活性化にもつながるものとは思わないか。

答 保護者と自治体が責任を分担し、学校給食の充実を図ろうとするものだ。

問 給食費無料化による予算額は現在いくらか。

答 徴収している給食費の額から現在では1700万円と予測している。

問 学校給食無料化制度を実施している全国の市町村は、市町村長の決断で取り組んでいる。全日本教職員組合のアンケート調査でも全額補助する自治体は45に増えている。

答 学校給食無料化制度を実施している全国の市町村は、市町村長の決断で取り組んでいる。全日本教職員組合のアンケート調査でも全額補助する自治体は45に増えている。

る。町長の決断を求め

答 少子・高齢化の中で検討課題

にあがる。全体の施策のなかで位置づける。



山岸国夫議員



給食を食べる児童たち

若い介護職員の育成を

答 緊急の課題と認識している

問 町内の介護施設における介護職員は20代、30代の方が少なく、早急に人材育成の取組を強化する必要がある。この対策を進めるうえでも介護職員の待遇改善が必要である。町長の認識と対応策は。

答 十分な待遇改善がなされたとは言いがたい状況であることは同感だ。

問 介護職員75名の年齢構成は。

答 若い方が少ない。40代の比率が多い傾向にある。

問 介護職員は、40〜50歳代の年齢層が厚い。現場では、病気でも無理して仕事をしたり、休日となっている人を出動させている。若い職員の早急な育成の必要がある。介護施設は若い人達の職場の確保、福祉の面と産業としてとらえ、

町内の活性化につながる。国に対して待遇改善を求めること、南会津郡内の町協同で介護職員の待遇改善に向けたインシアチブを取ることも重要だ。介護福祉士の育成対策はあるのか。

答 緊急の課題と認識している。郡内全体の課題として関係している法人と協議し対応していく。

問 「奨学金貸与による就学支援」とあるが、只見に就職した場合返還しなくとも良い制度か。

答 給付型の奨学金について制度設計を検討している。

「ふるさと納税」で財源対策を

答 更なる拡充に努めたい



なかのたかのり 議員 中野大徳

問

地方間格差や過疎などによる税収の減少に悩む自治体に対して、格差是正を推進するため創設された「ふるさと納税」の実績と考え方を伺う。

答

取り組みの実績としては、クレジットカード決済の導入や返礼品への「只見産コシヒカリ」の追加を行ってきた。なお、本年度も引き続き返礼品の充実を図っていく。

問

ふるさと納税は、県内においては湯川村、飯館村が3億を超える寄付を集めている。全国を見れば、長野県阿南町では、農業生産活動が困難になる中、農家支援策として成功している例もある。また、熊本地震においては「ふるさと納税」を介して、193億円の寄付金が寄せられている。使用道に關しても、子育て・福祉・ローカル線の支援等各市町村のアイデアで様々である。取り組み方、考え方、アイディア一つで新たな財源確保の要素となりえる制度と考えているが、町当局ではどう考えているのか。

答

更に拡充するよう努力する。

歴史の道

「八十里越」を国指定に

答 国道供用開始と併せ努力する

問

八十里については、懸命に取り組んでいると認識しているが、現状と今後の取り組みについて伺う。

答

八十里越については3本の道があり、「新道」については、平成8年文化庁「歴史の道百選」に選定されているが、三条

問

市、魚沼市と連携し、国指定史跡となるよう関係機関と協議を進めていく。
平成34年国道289号供用開始と同時に「歩く国道」が、国指定史跡「歴史の道」となるという認識で良いか。

答

各担当課で競い合い、国道289号供用が先か、国指定史跡が先か努力していく。



八十里越を視察する三条市・只見町の議会議員



ブナりん

教えて！議会のこと

Vol.8



アカショウちゃん

議会のインターネット中継



イワッペ

只見町キャラクター ©Tadami

議会傍聴の新しいかたち、インターネット中継のことを聞いてみました。



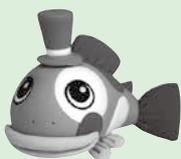
ブナりん ぼくたちは案外忙しくて議会傍聴ってなかなか行けないんだけど、いい方法ないかなあ？

広報広聴委員長 忙しい人には議会のインターネット中継を通じて議会傍聴する方法があるよ。



アカショウちゃん それってどうやんの？

広報広聴委員長 パソコンやタブレットPCを使って議会中継を見るんだよ。本会議はUSTREAM（ユーストリーム）社のサービスを利用してライブ中継されているよ。検索サイトで「只見町議会中継」と検索してみてね。また以前の会議を見たいときにはバックナンバーとしてYouTube（ユーチューブ）に保存された動画を見ることができるんだよ。



イワッペ テレビ局が取材に来てるの!?

広報広聴委員長 いやいや、テレビ局は来ないけど議場にはインターネット中継用のカメラとマイクが設置

されているんだよ。2台のカメラが当局側と議会側にそれぞれ向いていて、発言者を撮影するんだ。カメラは高性能になっていて、ズームアップしたときには表情までよく見えるんだよ。

ブナりん それはぜひリアルタイムで見たいね！

広報広聴委員長 それならスマートフォンでもUSTREAMアプリを使って試聴できるんだよ。ラジオ代わりに聞くこともできるから何かをしながらでも議会傍聴できて便利なんだ。アプリのインストール方法などは下記のリンクやQRコードを読み取ってみてね。

アカショウちゃん すごい時代になったね！

只見町議会中継は、
只見町議会ホームページから視聴できます。
<http://www.tadami.gr.jp/parliament/ustream.html>



只見町議会中継

検索



18歳になって迎える初めての選挙



只見高校 3年1組

ぼば ゆうか
馬場 友香

選挙権年齢が18歳へと引き下げられ、去年とは違い、今回は有権者という立場になりました。今までは、ニュースや新聞で選挙の話題が出て、自分はまだ有権者ではないからとそこまで気にしていませんでした。しかし、今年からは有権者の一人として、各政党のマニフェストをしっかりと調べて、自分の将来のためにどんな政策をしてほしいかをきちんと考え投票をしたいです。また、これをきっかけにして他の政治の問題にも興味・関心を持つようと考えています。将来、進学や就職をして忙しくなっても、政策を調べ、判断したうえで、しっかりと選挙と向き合い、期日前投票なども利用し選挙に参加していきたいです。



只見高校 3年2組

はらだ しゅり
原田 珠理

今年から選挙権年齢が18歳以上となり、私たちに投票権が与えられました。今までは政治に興味がなく、私1人が投票してもしなくても、政治は動かないだろうと思い、まったくというほど投票の大切さを考えたことがありませんでした。しかし最近、政治の在り方や税金の使い方などで疑問を持つことが多くなりました。そして、その政治を動かしている議員は私たち国民が選んだ代表であり、この結果を生み出したのも私たち国民だと考えるようになりました。今まで私がする投票は、意味のないものだと思っていた事が恥ずかしくなりました。たった1票だとしてもこの1票を無駄にせず、将来の政治がよくなるようにきちんと考え、投票したいと考えています。

新人議員研修

去る5月18日、福島グリーンパレスにおいて新人議員研修会が開催され、只見町からは3名の新人議員が出席しました。

研修内容は、①地方自治法（議会関係）の解説
②議員の心構えと議会運営について
というものでした。

「住民の声や心を代表する」という心構えを忘れずに、「皆様のお役にたてる議員になりたい」と強く意識することのできた有意義な研修でした。



新人議員研修会の様子

編集後記

議会が改選となり、新人議員3名を含む新たなメンバーでスタートしました。昨年4月から常任委員会となったことで、情報の提供、住民の声を聞く「広聴」が委員会の役割として明確に位置付けられました。人口減少の中では、より住民との対話を踏まえた町政運営が大切と考えます。我々も「住民協働」の議会運営を目指して奮闘してまいります。

(目黒仁也委員長)

発行責任者

議長 齋藤 邦夫

広報広聴常任委員会

委員長 目黒 仁也

副委員長 目黒 道人

委員 大塚純一郎

委員 中野 大徳

委員 山岸 国夫

委員 鈴木 好行